令和8年度全国学力・学習状況調査及び岡山県春の学習状況調査の結果

4月21日（火）・23 日（木）・5月8日（金）に行われた、調査の結果と分析についてお知らせします。

3年生平均正答率（%）（英語はIRTスコア*）

教科	国語	数学	英語
全国平均	63.9	57.0	499
岡山県平均	65.0	57.0	495
津山市平均	60.0	53.0	466
加茂中学校	**76.0**	**73.0**	**576**
全国との比較	+12.1	+16.0	+77
（〃　*2年時）	+9.7	+15.4	+25.8
（〃　*1年時）	+3.4	+4.2	+5.8

*3年英語は、CBT（コンピュータ使用型テスト）で実施し、IRT（異なる問題から構成される調査の結果を同じものさしで比較する）に基づいたスコアを掲載しています。

「学習状況調査」より、学年毎の肯定的回答

（下段は県平均・・・灰色：県平均以上・黒色：県平均以下）

	1年	2年	3年
自分には、よいところがある。	87.6	89.4	90.4
	84.1	83.4	86.4
将来の夢や目標を持っている	95.2	84.0	100
	87.8	80.9	67.6
学校に行くのは楽しい	100	100	100
	93.2	90.2	86.8
平日の学習時間（1時間以上）	87.6	89.4	80.9
	54.3	51.8	53.3
地域や社会をよくするために何をすべきか考える。	100	94.7	100
	84.1	76.9	74.5
普段1日一時間以上スマートフォンでSNSや動画視聴をしている。	62.7	**78.9**	**99.9**
	71.8	78.7	93.5

3年生調査結果から

成果

・全教科で全国・県より高い平均正答率であった。3教科の授業改善だけでなく、「令和7年度2学期からすぐに取りかかる具体的な取組」で、既習事項の定着のさせ方を創意工夫したこと、「新・かもサイクル」を活用し、思考する問題への対応力の強化を促進したこと等、全教職員で意識して実施した成果だと考える。
・学校全体で取り組んでいる PBL「自治」活動の一環の「授業を生徒と『ともに』つくる取組（生徒参加型研究協議・授業目標振り返り会等）」により、生徒が主体的に学習に取り組み、学習意欲が高まり学力の向上につながった。
・「学校に行くのは楽しい」については、自分達の学校の魅力を生徒自身が認知し、その魅力を発信しようとする取組が盛んに行われだしたことで帰属意識が高まり、生徒が主体となって「よりよい学校」のあり方について協議・検討し、「みんなが学びやすい」安全・安心な教育環境を整備したことで支持的風土が醸成されたことが要因であると考える。
・家庭学習時間の増加については、近年、本校では生徒が主体となり、家庭学習を課題主体から自主学習（以後「のびしろ学習」）主体への転換を図る取組を推進している。生徒が自ら「自主学習＝やるのは自由」という認識を払拭し、目的をもって「のびしろ学習」に取り組んだことで「やる気にさせる家庭学習」が実現され、家庭学習時間の増加につながったと推察する。また、「やる気にさせる家庭学習」を合い言葉に「授業や小テスト等とリンクさせ、『課題は作業』とならない工夫の実践」を全教科で行っていることも影響していると考えられる。

課題（のびしろ）

・国語では「文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使える力」「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉える力」に課題が見られた。
・数学では、「具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉える力」「筋道を立てて考え、証明する力」等、数学的な思考力に課題が見られた。
・英語では、「日常的な話題について、話を聞き、概要を捉える力」「事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く力」に課題が見られた。
・「既習事項の定着」については、「振り返りのスパン（短期・中期等）を工夫して振り返り（小テスト）」や「習得が難しい既習事項を定着させるため意図的・計画的に課題設定の工夫」を行ったりしているが、「覚える」ことに注力しすぎて「活用する」ための学びになっていなかったり、用語は知っていても適切に用いることができなかったりしたため、正答率が低くなった。
・最後まで読んだ（聞いた）うえで解答したり、もう一度見直して確認したりすることが求められる難関問題への対応力の強化が必要である。
・家庭学習時間と関連がある携帯・スマホ時間については、近年、生徒が主体となって「スマホ・メディア My ルール」を策定し、定期に見直しや振り返りを行うように取組を改良しているが、成果が十分に出ていない。そのため、今後は、生徒だけではなく家庭・保護者と「ともに」改善が図れる企画を講じたい。

今後の取組

「令和 8 年 2 学期から『すぐに取りかかる具体的な取組』」を以下の通り策定し、全職員で取り組む。

1.「既習事項を理解して定着」させる手立ての創意工夫
　①「忘れる」ことがないよう、主体的に取り組める反復学習の設定を工夫
　②習得が難しい既習事項を定着させるため、意図的・計画的な課題設定の工夫継続
2.「新・かもサイクル」を活用し、思考する問題への対応力の強化促進
　①初見問題や、2つ以上の事象（図と文章等）を関連づける問題への挑戦継続
　②「正確に解答」できるようになるため、読解力の向上と、思考したことを表現する活動の時間確保
3 生徒と「ともに」、個別最適な家庭学習の在り方の探求活動を継続
　①「まとめ」を充実させ、本時の理解深化と、次時に「つながる」家庭学習を促進
　②「自分に適した『のび学』」の行い方を探求するため、生徒主体の推進活動の継続